

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓 誠実・明朗

めざす学校像

- 1 生徒の夢が実現できる学校（生徒の希望する進路が実現できる学校づくり）
- 2 地域とともに歩む学校（地域から愛され信頼される学校づくり）
- 3 教職員の取組みが結実する学校（教職員が課題の共有化を図り、一丸となり課題解決に取り組むことで生徒が変容し、教職員が達成感を味わえる学校づくり）

育てたい生徒像 “3つのC”

- 創造的な人間（Creation） 学力の伸長を図り、個性豊かで創造的な人間
- 信頼される人間（Confidence） 高い知性と豊かな情操、公正な判断力を身につけ、自他を尊敬し、責任感のある人間
- チャレンジする人間（Challenge） 困難にくじけない強健な身体を育成し、向上心旺盛で何事にもチャレンジする人間

2 中期的目標

1 教育力の向上

(1) 確かな学力の育成

- ア 基礎学力を身につけるための山田B T（ベーシック・タイム 10 分間の朝学習）を継続発展させる。
- イ 授業での取組み（最初の 5～10 分に小テストを実施等）及び山田B T等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。
- ウ 英文法基礎及び英文法発展の授業において習熟度別授業を実施する。
- エ 国語表現等において少人数展開授業を実施する。

(2) 授業力の向上

授業充実P Tを核に、本校のめざす授業像「興味関心をかきたてられる授業、わかる授業」を実践する。校内のICT環境を整備したことにより、ICTを活用した授業研究を推進し、興味関心を高め知識の習得を効率化する。また、アクティブ・ラーニングなど生徒主体の授業を充実させる。そのことで生徒の学習意欲を喚起し、学力（知識・技能、思考、表現）の向上を図る。

- ア ICTを活用した授業研究を推進する。
- ※ICTを活用した授業実践を各教科で年間1回以上行う。
- ※授業アンケートにおける「興味関心、知識技能が身についた」の平均肯定割合 80%以上の水準を保つ。

イ アクティブ・ラーニングなど生徒主体の授業研究を推進する。

- ※アクティブ・ラーニングなど生徒主体の授業実践を各教科で年間1回以上行う。
- ※授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」の平均肯定割合 70%以上をめざす。

ウ 「全員による全員の授業観察」を目標にし、研究授業・公開授業を推進する。

※他の教諭の授業観察を行った教諭の割合を 100%。研究授業・公開授業の実施回数を年間 10 回以上とする。

エ 授業力向上の取組み及びB T学習（英語と国語の朝の 10 分間学習）とも連動させて、漢検・英検における 2 級・準 2 級の合格者を増加させる。

※英検（2 級 10 名、準 2 級 100 名）及び漢検（2 級 30 名、準 2 級 100 名）の合格者を増加させる。

オ 授業力向上の取組み及び3年間を見通したキャリア教育により希望進路実現率を向上させる。

※中期完成年度には国公立大学合格者数を 30 名に、関関同立大合格者数を 150 名以上にする。

(3) 3年間を見通したキャリア教育

- ア 選抜性の高い大学進学を中心とする生徒・保護者の進路希望に対応する。
- イ 補習・講習（課業日の早朝や放課後、長期休業）を組織的・計画的に実施する。
- ※学力生活実態調査を各学年、年 2 回実施し、その分析会を行う。
- ※全国レベルで生徒の学力を診断できる実力考査を各学年、年 1 回以上実施する。
- ウ 卒業生の実態把握を進め、同窓会と連携したキャリア教育を実施する。
- ※卒業生によるキャリア講演会を実施する。
- エ 1 年次の秋の校外学習を進路学習と位置づけ、学習への意欲を喚起する場とする。

(4) グローバル人材の育成

ア 語学研修を引き続き実施するとともに、姉妹校である Bentleigh secondary college との交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成する。

2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ

(1) 部活動や特別活動を通じ、生徒の「自尊感情」を高め、他者の役に立っているという有用感、困難を乗り越えることのできる力を育成する。

ア 部活動加入率を 90%以上とし、それを継続発展させる。（平成 28 年度 90.8%）

(2) 生徒会活動の活性化

ア 体育祭・文化祭の活性化を図る。

(3) 生徒指導の強化

- ア 遅刻指導を継続強化する。
- イ 服装・頭髪指導を継続強化する。
- ウ 交通安全指導を継続強化する。

(4) 校内美化の推進

ア 生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。

(5) 人権尊重の教育の推進

ア 生徒が自他の権利を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという基本的姿勢の形成をめざす。

(6) 安全で安心な学びの場づくり

ア いじめの防止・対策：いじめ防止対策推進法に則り、学校としていじめを許さない体制をとる。問題事象が発生した時は、ケース会議により早急に対策を練り実行する。

イ 教育相談機能の充実：定期的にアンケート調査を実施し、生徒の状況把握に努めるとともに、「高校生活支援カード」を利用した生徒支援の充実を図る。

(7) 始業式・終業式を自己を見つめ、学校生活への意欲を喚起する場、生徒を褒め称える場とする。

ア 部活動の成果等を伝達表彰するとともに校歌を全員で斉唱する。（毎昼休みに校歌を流す）

3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり

(1) 組織力向上：常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する。

ア 学年主任会議を設け、各学年の連携、引継ぎがスムーズにいくようにする。

※校外学習を、入学から卒業までの3年間を見通し系統的・計画的に実施する。

1年(2回)は春、仲間・クラスづくり、秋は大学見学の進路学習、2年春は修学旅行の事前学習等。3年春は最高学年として学年・クラスの団結づくり等。

イ 各分掌と各学年のバランスを図る。

(2) 保護者・地域との連携

ア 小学生対象の科学入門講座、中学生対象の「楽しいスポーツ芸術講座」、山高杯、山高カップなどを継続発展させる。

イ 地域の行事へ積極的に参加する。地域連携を深める。

(3) 教育活動の情報発信

ア 教育活動の情報発信について、総務部を中心に全校的に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育力の向上	(1) 確かな学力の育成	イ・授業での取組み及び山田B T等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。 ・教科指導（英会話、公民演習、数学Ⅲ、保健、国語演習等）で図書館利用を行っており、授業での図書館利用を更に促進するとともに、生徒の読書意欲を喚起し、図書館の利用人数を増加させる。	イ・山田B Tアンケートにおいて「平日ほとんど学習しない」生徒の割合を5%以下にする。（平成28年度8.6%） ・年間の利用者数4000人以上をめざす。（平成28年度利用者数3706人）	
	(2) 授業力の向上	ア・ICTを活用した授業研究を推進する。 イ・アクティブ・ラーニングなど生徒主体の授業研究を推進する。 ウ・「全員による全員の授業観察」を目標にする。 ・研究授業・公開授業を推進する。 エ・授業力向上の取組み及びB T学習（英語と国語の朝の10分間学習）とも連動させて、漢検・英検における2級・準2級の合格者を増加させる。 オ・授業力向上の取組み及び3年間を見通したキャリア教育により希望進路実現率を向上させる。	ア・ICTを活用した授業実践を各教科で年間1回以上行う。 ・授業アンケートにおける「興味関心、知識技能」の平均肯定割合80%以上の水準を保つ。（平成28年度82.8%） ・学校教育自己診断の（教職員）「ICT機器を授業に活用している」の肯定回答率（以下、同様）90%を確保する。（平成28年度90.0%） ・学校教育自己診断の（生徒）「授業でコンピュータやプロジェクターを活用している」90%をめざす。（平成28年度87.3%） イ・アクティブ・ラーニングなど生徒主体の授業実践を各教科で年間1回以上行う。 ・授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」の平均肯定割合70%以上をめざす。 ・学校教育自己診断の（教職員）「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」70%をめざす。（平成28年度64.0%） ・学校教育自己診断の（生徒）「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」70%をめざす。（平成28年度65.4%） ウ・他の教諭の授業観察を行った教諭の割合100%とする。（平成28年度96.7%） ・研究授業・公開授業を年間10回以上実施する。 エ・英語検定2級の合格者数を10名（平成28年度17名）に、準2級の合格者を80名（平成28年度48名）にする。 ・漢字検定2級の合格者数を24名（平成28年度10名）に、準2級の合格者を75名（平成28年度29名）にする。 オ・国公立大学合格者数を24名（平成28年度は京大、阪大等14名）に、関関同立大合格者数を150名以上（平成28年度168名）にする。	
	(3) 3年間を見通したキャリア教育	イ・補習・講習（課業日の早朝や放課後、長期休業）を組織的・計画的に実施する。 ウ・卒業生の実態把握を進め、同窓会と連携したキャリア教育を実施する。 エ・1年次の秋の校外学習を進路学習と位置づけ、学習への意欲を喚起する場とする。	イ・進路指導部が中心となり補習・講習を組織的・計画的に実施する。 ・学力生活実態調査を各学年、年2回実施し、その分析会を行う。 ・全国レベルで生徒の学力を診断できる実力考査を各学年、年1回以上実施する。 ウ・卒業生によるキャリア教育の機会を年1回以上持つ。 エ・2大学以上と連携して大学見学を実施する。	
	(4) グローバル人材の育成	ア・語学研修を引き続き実施するとともに、姉妹校であるBentleigh secondary collegeとの交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成する。	ア・姉妹校であるBentleigh secondary collegeとの交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成する。なお、交流する生徒数は20名をめざす。	

府立山田高等学校

2 豊かでたくましい人間性のほぐみ	<p>(1) 部活動や特別活動を通じて、豊かでたくましい人間性の育成</p> <p>(2) 生徒会活動の活性化</p> <p>(3) 生徒指導の強化</p> <p>(4) 校内美化の推進</p> <p>(5) 人権尊重の教育の推進</p>	<p>ア・部活動への積極的な参加を促す。</p> <p>ア・体育祭・文化祭の活性化を図る。</p> <p>ア・遅刻指導を保護者等と連携・協力して継続強化する。 イ・服装・頭髪指導を継続強化する。 ウ・交通安全指導を継続強化する。 全教職員による登校時立番を計画的に実施する。</p> <p>ア・生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。</p> <p>ア・生徒が自他の権利を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという姿勢の形成をめざす。</p>	<p>ア・部活動加入率 90%を継続発展させる。(平成 28 年度 90.8%)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における体育祭・文化祭に対する肯定率 90%以上 (平成 28 年度 91.5%)</p> <p>ア・遅刻総数前年度比 5%減。 イ・服装・頭髪違反者なし ウ・交通マナー(規範意識)を高め、事故を未然防止する。 ・生徒向け学校教育自己診断結果における学校規律に関する質問での肯定率 90%以上 (平成 28 年度 93.0%)</p> <p>ア・毎日の清掃活動を徹底させる。 ・特にトイレ、廊下、階段などの共用のエリアの美化に重点的に取り組む。 ・終業式後に一斉に大清掃(年3回)を行う。</p> <p>ア・人権研修会(生徒参加型)を年1度以上実施する。</p>	
3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり	<p>(1) 組織力向上：常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する。</p> <p>(2) 保護者・地域との連携</p> <p>(3) 教育活動の情報発信</p>	<p>ア・学年主任会議を設け、各学年の連携、引継ぎがスムーズにいくようにする。</p> <p>ア・小学生対象の科学入門講座、中学生対象の「楽しいスポーツ芸術講座」を継続発展させる。 イ・地域との連携を深める。</p> <p>ア・教育活動の情報発信について、総務部を中心に全校的に取り組む。</p>	<p>ア・校外学習を、入学から卒業までの3年間を見通し系統的・計画的に実施する。 ・平成 29 年度においては、1年(2回)は春、仲間・クラスづくり、秋は大学見学等の進路学習、2年春は自主性を重んじた修学旅行の事前学習。3年春は最後の体育祭に向けたクラスの団結力を高める取組み。</p> <p>ア・小学生講座 50 名以上、中学生講座 400 名以上の参加をめざす。(平成 28 年度小学生講座 55 名、中学生講座 417 名) イ・地域協議会等へ 10 回以参加する。</p> <p>ア・学校説明会を年間 20 回以上実施する。</p>	